

「市民のための身体症候学」 - こんな症状でお悩みの方へ -

第5回 「目のかすみ」

執筆：弘前大学医学部医学科眼科学講座・教授 中澤 満先生

執筆者の中澤先生

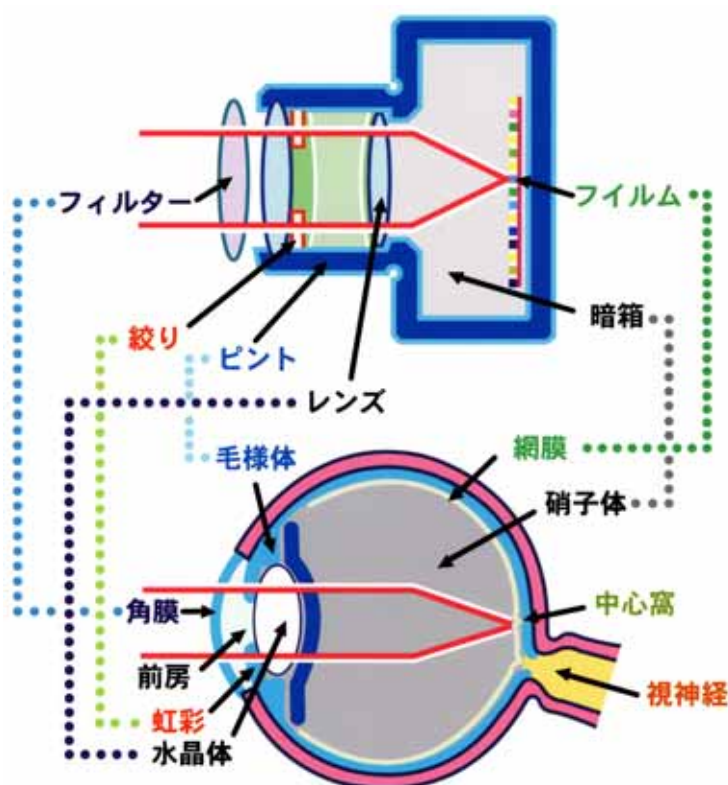


中澤先生の略歴

1. 所属：弘前大学医学部医学科眼科学講座・教授
2. 専門分野：網膜疾患、特に、網膜色素変性、糖尿病網膜症など
3. 生年月日：1956年1月20日
4. 出身地：北海道・函館
5. 出身大学：東北大学医学部
6. 趣味：社交ダンス

眼科の外来を「目のかすみ」を主な症状に受診される患者さんは比較的多いのですが、一口に「目のかすみ」といっても色々な症状がふくまれていてそれぞれに異なる様々な病気が隠されていることがあります。また年齢によっても起きてくる病気の種類にはかなりの違いがあります。ここでは話を分かりやすくするために最初に物が見える仕組みを簡単に説明しましょう。まず外から入る光は図に示されるように、順番に角膜、前房、水晶体、硝子体を通して最後

に網膜という薄い膜に到達します。眼をカメラにたとえますと角膜と水晶体はレンズ系で、前房と硝子体はレンズとレンズの間の空間、そして網膜はフィルムに相当します。光は網膜で電気信号に変換されて視神経を通じて脳、最終的には後頭部にある後頭葉という場所に運ばれてはじめて画像として認識されます。この角膜から後頭葉に至る経路のどこが傷害されても「目のかすみ」として自覚されることとなります。具体的には角膜から硝子体までの光の通路の混濁、つまりにごりといった状態と、網膜や視神経などの神経組織の傷害などに大きく分けられます。



目の構造（カメラとの対比）

次にひとつひとつの代表的な病気について光の通路に沿って見てみましょう。

1) 角膜の混濁

角膜の混濁は先天性や遺伝性の病気による角膜混濁のほか、細菌やウイルスなどの病原体感染による後天的な角膜混濁などがあります。感染性のものでは角膜の混濁以外にも結膜の充血や眼の痛みをとまなうこともあります。また、涙が足りなくなり角膜の表面が乾燥してもかすみという症状になります。

2) 前房の混濁

前房の混濁は色々な原因で起こる眼の中の炎症（ぶどう膜炎といいます）や

眼球にボールか何かをぶつけた際に前房中に出血が起きる場合などでみられません。

3) 水晶体の混濁

水晶体の混濁のことを白内障といいます。原因は加齢とともに水晶体タンパク質が変性して濁る加齢性白内障（以前は老人性白内障と呼ばれました）が最も多く、高齢者の眼のかすみの最も代表的病気です。高齢者でかすみ目を訴えて眼科を来院されて白内障が原因であることが分かった場合は比較的安心できます。なぜなら白内障はいわば歳をとって髪の毛が白くなるようなもので、加齢現象と考えられるからです。さらに現在では白内障手術も眼内レンズ移植手術と同時に進められることが多く、手術成績も比較的良好であることも多いため、治療によって再び良好な視力を回復できる方が増えています。その他の原因には先天性のもの、外傷やステロイド剤やその他の眼の病気に合併する白内障があります。

4) 硝子体の混濁

硝子体の混濁は糖尿病網膜症などの色々な網膜の病気にもなるとともに二次的に出血が起こったりするのが原因だったり、眼の炎症が原因だったりします。

5) 網膜の病気

様々な網膜の病気によって「目のかすみ」が自覚されます。代表的なものに糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症などの血管の病気によるもの、加齢黄斑変性症というあまり聞き慣れない高齢者の病気によるもの、また網膜剥離などによっても時として「目のかすみ」という症状で自覚されます。これらはまず正確な診断でその原因を明らかにする必要があります。

6) 視神経の病気

視神経の病気で「目のかすみ」を自覚する重要な病気に緑内障があります。この病気は本来は視野が狭くなる病気ですが視野の異常は徐々に進みますので軽症な初期の段階では自覚症状が現れにくく、相当進行した段階で「目のかすみ」として自覚されることが多いのです。

このように単に「目のかすみ」といっても非常に多くの病気が隠されていることが理解できたと思います。「目のかすみ」はその原因の違いで治療法が全く異なりますので、このような症状をはじめて自覚したら自己判断せず眼科医にきちんと診断してもらうことが重要です。

ご意見・ご感想をお寄せください。

Tel and FAX : 0172-39-3147

Eメール : ss0306@cc.hirosaki-u.ac.jp